

# 「呼吸器機能障がい者（児）を対象とした災害時の電源確保に関するアンケート」の結果について

令和元年 7 月  
札幌市障がい福祉課

## 1 調査の対象者（送付先）について

市内に居住する「呼吸器機能障害」の身体障害者手帳を所持する障がい者（児）1,299 人に対し、受取人払い（平成 31 年 4 月 30 日差出まで有効）の返信用封筒を同封して郵送調査を実施

## 2 調査期間等について

発送日：平成 31 年 3 月 6 日（水）

返送期限日：平成 31 年 3 月 22 日（金）

（※ 返信用封筒は平成 31 年 4 月 30 日差出まで有効のため、平成 31 年 5 月 7 日（火）到着分までを集計）

## 3 アンケート結果の概要

### (1) 回答数・回答者の性別

男性	女性	無回答	計
443 人	218 人	20 人	681 人
65.1%	32.0%	2.9%	-

- 回答者数は 681 人（回収率 52.4%）で、男性が 443 人（65.1%）、女性が 218 人（32.0%）、性別の無回答が 20 人（2.9%）で男性の割合が女性の約 2 倍となっている。
- その他、長期入院・市外転出・居所不明などによる返戻が 18 通あった。

### (2) 回答者の年齢層

20 歳未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	無回答	計
22 人	12 人	10 人	10 人	25 人	80 人	245 人	267 人	10 人	681 人
3.2%	1.8%	1.5%	1.5%	3.7%	11.7%	36.0%	39.2%	1.5%	-

- 70 代以上の高齢者が 512 人/681 人で 75.2%を占めている。

### (3) 施設・在宅の別

一般住宅	施設等	無回答	計
521 人	119 人	41 人	681 人
76.5%	17.5%	6.0%	-

- 一般住宅（長期入院・施設入所、サービス付き高齢者住宅やグループホーム入居等を除く）で生活している方が 521 人（76.5%）となっている。

#### (4) 同居家族の有無

同居家族あり	一人暮らし	無回答	計
522 人	135 人	24 人	681 人
76.7%	19.8%	3.5%	-

- 配偶者や子ども、孫などの同居者がいる方が 522 人と 76.7%となっている。
- 一人暮らしの方は 135 人でおよそ 2 割（19.8%）となっている。

#### (5) 手帳等級（呼吸器機能障害）と疾病名

1 級	3 級	4 級	無回答	計
164 人	342 人	123 人	52 人	681 人
24.1%	50.2%	18.1%	7.6%	-

- 病名で多いのは、①慢性閉塞性肺疾患（COPD）：156 人（22.9%）、②肺気腫：124 人（18.2%）、③間質性肺炎：66 人（9.7%）の順となっている。

#### (6) 呼吸器機能障害に関する医療機器の使用状況

項目	人数	割合
①常時電源が必要な医療機器（酸素濃縮器又は人工呼吸器）を使用	519 人	76.2%
②酸素ポンペのみ使用	50 人	7.3%
①，②の機器未使用	24 人	3.5%
無回答	88 人	12.9%
計	681 人	-

- 呼吸器機能障害に関する医療機器（酸素濃縮器、人工呼吸器又は酸素ポンペ）を使用している方は 569 人で回答者の 83.6%となっている。

このうち、電源が必要な医療機器（酸素濃縮器又は人工呼吸器）を使用している方は 519 人で 76.2%、酸素ポンペのみを使用している方が 50 人で 7.3%となっている。

#### (7) 災害前の対策・準備状況

- 発電機、蓄電池（ポータブル電源）などの電源確保のための用品を事前に用意していた方は 64 人で 9.4%となっている。
  - ・ 予備バッテリーを用意していた方が 50 人（7.3%）
  - ・ 蓄電池を用意していた方が 12 人（1.8%）
  - ・ 発電機を用意していた方が 6 人（0.9%）
    - うち、予備バッテリーと発電機を用意していた方が 1 人
    - 予備バッテリーと蓄電池を用意していた方が 3 人
  - ・ 自由記載欄に「カーインバーターで車から電源を確保した」と回答した方が 5 名あった。

### (8) 災害時（停電時）の対応・過ごし方について

病院へ避難	避難所へ避難	その他場所へ避難	在宅（自宅）	無回答	計
100 人	1 人	19 人	488 人	73 人	681 人
14.7%	0.1%	2.8%	71.7%	10.7%	-

- 病院に避難した方（発生前から入院中の方を含む）が 100 人で 14.7%となっている。
- 避難所に避難した方は 1 人（0.1%）に過ぎない。
- その他の場所に避難した方は 19 人で 2.8%となっており、避難先は「子ども（息子・娘）の家、親戚宅」がほとんどとなっている。
- 自宅内で過ごした方（避難しなかった方）が 488 人で 71.7%と最も多い。

<避難しなかった理由>

- ・ マンション高層階でエレベーターが使用できなければ避難できない。
  - ・ 酸素濃縮器が大きくて重たすぎるので、持ち運びできない。
  - ・ 避難先に電源がなければ、医療機器が動かないので意味がない。
  - ・ 避難所での感染は呼吸器機能障害者には致命的だから
  - ・ 酸素（酸素ボンベ）が確保できれば、自宅にいるほうがよい。
  - ・ （障がい程度が比較的軽い場合）酸素がなくても、安静に過ごせばなんとかなる。
- などと回答している。

### (9) 災害後に購入済・用意したもの（681 人の複数回答）

項目	人数	割合
災害後に購入・用意した	121 人	17.8%
発電機	9 人	1.3%
予備バッテリー	20 人	2.9%
蓄電池	20 人	2.9%
予備酸素ボンベ追加	92 人	13.5%
特にない	446 人	65.5%
無回答	114 人	16.7%

注：内訳の合計値は複数回答のため 121 人を超える

- 災害後に対策用品を購入又は用意した方は 121 人（17.8%）となっている。  
うち、電源確保のための用品（発電機、予備バッテリー、蓄電池）を購入又は用意した方は 47 人（6.9%）となっている。
- 「特にない（用意していない人）」の多くが、その理由として
  - ・ 酸素ボンベ業者が酸素ボンベを届けてくれるので心配していない
  - ・ 酸素ボンベがなくなっても、安静にしていればなんとかなる
  - ・ もう長時間の停電は起こらないと思うから
  - ・ 何を用意すれば良いのかわからない
 などと回答している。

(10) 今後用意したい災害対策用品 (681 人の複数回答)

項目	人数	割合
今後、用意したい用品	386 人	56.7%
①非常用電源等	264 人	38.8%
A 発電機	176 人	25.8%
B 予備バッテリー	83 人	12.2%
C 蓄電池	67 人	9.8%
②酸素ボンベ追加	197 人	28.9%
特になし	165 人	24.2%
無回答	130 人	19.1%

注：①と②の合計値は複数回答のため 385 人を超える  
注：A, B, C の合計値は複数回答のため 264 人を超える

- 今後、何らかの災害対策用品を用意したいと考えている方は 386 人 (56.7%) となっている。  
うち、電源確保のための用品 (予備バッテリー、発電機、蓄電池) を用意したいと希望する方が 264 人で 38.8% (購入・用意したい人 386 人に対する割合は 68.4%) となっている。
- 予備の酸素ボンベの本数を増やしてほしいという回答が 197 人 (28.9%) となっている。  
(購入・用意したい人 386 人に対する割合は 51.0%)
- このほか、自由記載欄に「カーインバーターの助成」を希望する記載が 4 名あった。

(11) 購入していない理由 (681 人の複数回答)

購入していない理由	人数	割合
1 製品が高価なため	232 人	34.1%
2 保管場所がない	97 人	14.2%
3 販売店が見当たらない	19 人	2.8%
4 その他	101 人	14.8%
無回答	313 人	46.0%

注) 複数回答のため、合計値が 681 人を超える

- 購入していない理由として、「製品が高価なため」が 232 人 (34.1%) と最も高い。  
(非常用電源等を購入・用意したいと回答した方 264 人に占める割合は 87.9%)
- 「その他」の回答には
  - ・ 使用方法がわからない
  - ・ どの機器を購入すれば良いのかわからない
  - ・ 車から電源を確保できるようにしたい (カーインバーターの購入を検討している)
  - ・ 酸素ボンベの供給体制をよくしてもらいたい
  - ・ 必要ないなどの意見があった。

## (12) 自由記載欄の主な意見・要望等（それぞれ複数あった意見を集約）

- 災害時の情報提供について
  - ・ 災害時に電源が確保できる避難先（施設・病院）の情報提供が必要
- 非常時の電源確保について
  - ・ バッテリーや発電機、カーインバーター等を安価又は無料で助成してほしい
  - ・ 今後、長時間の停電が起こらないよう、インフラの整備・増強を望む
- 酸素の供給体制について
  - ・ 酸素ボンベが1回につき2～3本しかもらえない。もう少し多くしてほしい
  - ・ 業者と連絡が繋がらず、通じても酸素ボンベの在庫がないと言われた
  - ・ 酸素を詰めるための電気が不足しているため、ボンベの貸出本数に制限があった
  - ・ 各区に在宅酸素療法者用の避難所・病院があるとよい  
(人工呼吸器、濃縮酸素器や酸素ボンベを常備しておく)
- 移動・避難について
  - ・ 呼吸器機能障がい者はエレベーターが停止すると移動できないので、複数の支援者が必要
  - ・ 階段昇降が困難なので、エレベーターが動かないと自宅・部屋で安静にして待つしかない
  - ・ 酸素ボンベを最小流量に絞って節約して安静に過ごしたが、いつなくなるかと不安だった
  - ・ 酸素濃縮器は重量があり、自力での避難が困難なので自宅内で電源を確保する必要がある